2015 年度秋学期授業アンケート総評

教育・研究推進センター所長 余田義彦

2015 年度も前年度に引き続き、全科目対象で授業アンケートを実施した。アンケート項目を変えていないため、前年度と比較することで改善状況を確認できる。全学での集計結果については、次のような変化が見られた。若干の補足とコメントとともに記しておく。

1. 実施率・回答率

実施率は-1.4%と微減したが、回答率は+2.2%と微増した。実施率が下がった一因は、春学期と同じで音楽学科でカリキュラム改訂が行われて個人レッスン科目が大幅に増えたことと関係している。それらの科目ではアンケートで匿名性が確保できないので、実施を見送る科目が増えたからである。音楽学科と教・研センター主任会で対応を検討した結果、これらの科目については次年度から集計を個人レッスンごとに行わず、学年など大きな括りで集計を行うことにした。

2. 質問項目ごとの評点平均値

授業理解度、意欲、知的好奇心、時間外学習時間、話し方、授業の工夫、シラバスとの合致、教員の配慮、授業レベルなど全ての項目で微増した。同様に春学期も全ての項目で微増しており、各学科で行われてきた授業改善の取り組みが数字になって表れたものと考えられる。アクティブラーニングの授業実践や授業支援システム「マナビー」の本格活用をとおして今後さらに伸びることを期待したい。

3. DWCLA10 選択率

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力など全ての項目で微増した。DWCLA10 はディプロマポリシーの内容を具体的に表現したものとされているが、リーダーシップの選択率は 3.3%と他の項目と比べて目立って低い。中央集権型の組織が多いこれまでの社会では、リーダーシップはトップに立つ者だけに求められる能力と捉えられてきた。しかし、自律分散協調型の組織が増えるこれからの社会では、すべての構成員に求められる能力となる。リーダーシップをどのように捉え、どのように育てていくかは重要な課題である。